

官版

泰西農學

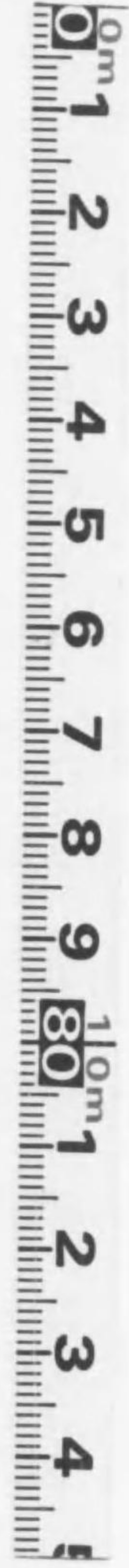
附錄

下

6-68



1200900129323



始



泰西農學附錄卷下

緒方儀一 纂譯




蔬菜ノ部

瑞士蕪菁ノ説 士

按ニ彼邦ニハ蕪菁ノ類大約四十六種アリ其中、瑞士蕪菁十一種、黃色蕪菁十七種、白色蕪菁十八種アリ今此三種ヲ逐一ニ列載スルハ事極テ長ケレバ茲ニハ本編ニ關係アレバ唯瑞士蕪菁ノ産處ト形狀トヲ知ラシムルノミ

蕪菁ハ其來歴他ノ蔬菜ノ如ク詳ナラズトイヘ
 ドモ是ニ瑞士蕪菁ノ名有レバ本其國ヨリ移植セ
 ル者ナルベシ又伊太利ニテナウオニ、ド、ラポニア
 ト云フハ巴拉巴彌吐ノ原産ト云フ義佛語ノシユリ、ド、フ、
 ポーシ、又シユ、ド、シユエードト云フハ其產地ノ詳ナ
 ラザルヲ證スルニ足ルナリシヨシ、シンクレール氏
 ノ説ニ此菜根ノ英國ニ傳リシハ千七百八十一
 二年ノ頃東ロヂアノ産ニシテゴツテングルグニ
 住スルノツクス氏ナル者博士ハミルトン氏ニ

其種ヲ贈テ栽培スベキヲ勸メシカバ蕪忽蘭ニ
 於テ初テ之ヲ播種セルナリトイヘリ然レドモエ
 イルス氏ハ是ニ先ツ一八九年前千七百七十三年
 ニ己ニ之ヲ蕪忽蘭ニ栽培ストイヘリ但其初
 テ種シ時ハ園中ニ壇ヲ築キ其中ニ播萌生スル
 後ニ之ヲ野ニ移シ斯克テ十全ノ收成ヲ獲ル一ニ
 三年始テ直ニ野ニ種シトナリ斯克確實ノ證ア
 レバ千七百七十三年ニ移植セシヲ始トスマシ
 凡ツ瑞士蕪菁十八種ノ中蕪頂ノ者ノミ昔ヨリ

| | | |
|---|--|--|
| <p>甲</p>  <p>根球色黄</p> | <p>乙</p>  <p>根球色白</p> | <p>丙</p>  <p>根球色白</p> |
| <p>此線以下ハ地下ニ入ル處ナリ</p> | | |
| <p>獨リ賞譽ヲ得タリ蓋シ此種ノ者ハ其含有スル所ノ養分多ク其性能ク久ニ耐ヘ且得獲モ極メテ多ケレハ實ニ燕菁類中家モ貴フハ燕菁キモノナリ其形ハ卵圓如シノ肉及土ニ入ル所ノ皮ハ橙黄色ニシテ土ヲ出ル所ノ皮ハ黯然色其葉ハ帶藍綠色ニシテ長サ大約一尺許アリ直立ス層理稍粗皮白黄ノ</p> | <p>燕菁 瑞士 頂</p> | <p>根球色白</p> |

二種ニ比スレハ厚ク肉爽脆手ニ觸レハ堅クンテ重シ

凡ソ瑞士燕菁良全ノ收成ハ一エーケル毎ニ三十噸ヨリ三十五噸ニ至ル又其一根ノ重ハ斤ヨリ十二斤半ニ至ル總テ此燕菁ハ牛羊ニ喂ハシムルニ最佳ノ養料トス大ナル者ハ一根ニ養分百

マンゴールド根ノ説

占 マンゴールド、ウールツェルトハ尋常ノ野生菜

菜ト別ツカ為ニ英^{イギリス}並共ニマンゴールド根ヲ呼
 ノ名ナリ此名ヲ初メニハ訛^{アソリ}リ傳ヘテマンゲル
 ウールツェルト呼ヘリ今モ尚此訛名ニ因ルモノ
 多シ凡ツ此野生菘菜ハ園生菘菜ト異ニシテ諸
 部共ニ大ナリ其根ノ色紅、綠、白、數種アリ狀モ亦
 胡蘿^{ニンジン}蔔^{カブ}ニ類スルアリ球形ナルモアリ是ヲ園圃
 ニ培栽スル法ノ英國ニ傳ハリタルハ已ニ紀元
 千七百八十六年ノ夏ナルカ世間ニ普^{アソリ}ク用フル
 様ニナリタルハ僅ニ近年ノ夏ナリ然レハ其始

之ヲ獸畜ノ養料トセシ片ハ唯葉ノミヲ用ヒテ
 根ハ棄テ願ミガリシ程ノ夏ナリシカ其後漸ク
 之ヲモ寵用スルニ至レリ

凡ツ此物ハ蕪菁ニ比スレバ能ク温熱ニ耐ヘ病
 患モ亦少クシテ且裁養宜シキヲ得レバ得獲甚
 多シセルシ^{イギリス}島及倫敦ノ傍近ノ肥糞ヲ多ク施
 セル地ニテハ毎エ^{イーカー}ク^ル七十噸ヨリ八十噸ノ
 得獲アリ英^{イギリス}蘭ノ南方ニテハ大抵一^{エーカー}ク^ルニ
 ノ瑞士蕪菁二十噸ヲ産スベキ地ニハ此物三十

噸ヲ産ス但シ蕪忽蘭ノ寒冷ナル地ニテハ右ノ
 如キ得獲ナリ且花ノミ徒ニ盛ニシテ實少シ是
 一二ハ液管寒氣ノ為ニ收縮スルト種實ヲ作ル
 カ為ノ養料乏シケレハナルベシ然ドモ近年蕪
 菁ノ收穫ヲ多クセンコトヲ研究スルモノ多キヲ
 モテ此物ヲ栽培スルノ法ヲモ推究シ大ニ成效
 ヲ得タリトイフ其栽培ノ法ハ蕪忽蘭ニテ從
 夏スルモノト異ナルコトナシ
 此菜根ハ林氏ガ五綱ノ二目ジツシウ氏ガ自然分

科ノ藜科ニ属スル菘菜ノ一種ナリ始メ英國ノ
 人野生菘菜ノ日耳曼称呼ヲ詳ニセサリシヲ以
 テ一時議論決セサリシガ今ニ至テ此物ハ即日
 耳曼ニ所謂マンゴールドタールツェルニシテ其
 字義白色菘菜ノ根ヲ指ストイフコトニ決定セリ
 日耳曼人ホスタリエル氏ノ説ニ此物ハ園生紅
 色菘菜ト白色砂糖菘菜トノ中間化生物ナリト
 イヘリ
 凡ソマンゴールド根ノ葉ハ紅色或ハ帶紅綠色

ナリ其根ノ形ハ兩端管ニシテ梭ノ如キモノアリ
 リ一端ハ太ク一端ハ尖リテ針ニ類スルモノアリ
 リ圓クメ球ニ似タルアリ又其外面ノ色ハ黯紅
 ニ内質ハ大理石ノ如キ白紋アルアリ赤色ノ斑
 アルアリ其中球形ノ者ハ多クハ外皮黯橙黃色
 ニシテ針形ノ者モ亦其色之ニ類スルアリ通常
 之ヲ赤色長根、黃色長根、橙圓根オレンヂヤウダニ編上卷廿五葉
 グロト等ノ數種ニ分ツ種子ノ形ハ腎ノ如
 ク其殼未ダ熟セザル間ハ綠色ニシテ軟キ一肉

ノ如シ巴ニ熟スル片ハ硬クノ組織木質ニ類ス
 右三種ノ中橙圓根、輕鬆ノ上質ニ冼相應シ黃
 色長根ハ初冬ノ頃之ヲ用フルニ赤色ノ者ニ優
 ル等各其長處アリ是ヲ以テ冬月牛羊ヲ養フニ
 燕菁ヲ用ヒズシテ專ラ此物ニ依頼スル地方ニ
 於テハ三種共ニ栽培スヘシ凡ソ此菜根ニ含有
 スル所ノ甘美ノ滋液ハ燕菁ノ如ク嫌惡スベキ
 香氣ナキヲ以テコヒキウレ牛奶ニ餌スルニ冼モ佳良ノ品
 ナレドモ燕菁ノ如ク鮮根ヲ直ニ用フルヲ得ズ

採收後數宿ヲ經サレハ害アルヲ以テ稍其缺處
トスルノミ且三種ノマンゴールド共ニ礫ト濃
厚ノ埴土ト相混セル地ニハ皆能ク成熟スレト
モ或ハ特リ礫ニ偏シ或ハ專ラ埴土ニ倚スルノ
地ニハ栽培スヘカラス
又白色砂糖蒸菜ハ砂糖ヲ製取スルカ為ニ佛國
ニテ年又ク栽培セリ因テ是カ為ニ設ケタル製
造局甚多シ蓋シ斯ク盛ニ栽培スルニ至レルハ
那破翁勃那巴爾底カ意量ヨリ出タルニテ其

國人ヲメ我領國印度ヲ指スニ産スル者ヲ用ヒサラ
シメンカ為ナリ

凡ソ前三種ノ者ハ蘇忽蘭カ風土ニハ相應セス
フオールハアールシイルニ於テ余カ所有ク肥腴ク
園圃ニ三歳續テ種エ試ミシニ其措置ニ遺策カ
カリレカトモ初唯一歳ノミ其收成ヲ得タリ是
スラ蕪菁ニ比スレハ其量極ノテ少カカリシ然
レトモ英倫ノ中東方諸郡ニテハ能ク成熟セリ
又愛耳蘭ニテ泥炭地ヲ開發シテ種エシト赤色

長根ノ者ハ收成極メテ饒^{トホ}カリシト云
 又白色砂糖菘菜ヲ栽培シテ砂糖ヲ製取スルニ
 適スル地方ノ限界ハ北緯四十五度マテノ處ニ
 在リ故ニ仙ノ風土ニハ極メテ相應スレトモ英
 國ニハ適セサル地多シ叔砂糖ヲ製スルニハ生
 根ヲ檢查スルニ其質密實ニメ折レ易ク之ヲ断
 レハ軋聲アリテ鬆ナラサル者ヲ擇ブベシ
 右ハ**士氏**カ書中諸處ヨリ抄譯シ補綴シテ一
 篇ヲ成セルモノナリ此他栽培ノ法其成分ヲ

分析セル表等ヲ詳ニ載セタレトモ事長ケレ
 ハ此ニ贅セヌ余近日此等ノ遺漏セル者ヲ纂
 譯シ西農餘話ト名ケテ將ニ世ニ問ントス其
 刊布ヲ俟テ參看ス、シ又左ニ載ル一條ハ余
 此菜根ノ事ヲ芳男田中氏ニ質セシ時其譯シ
 テ贈ル所ナリ

博此品ハ尋常菘菜ヨリ粗大ナルニ因リ世人ノ
 能ク知ル所ナリ根ノ内部ハ赤色、紅色、或ハ白色
 ノ層アリ其産處未ダ詳ナラズ或ハ尋常菘菜ノ

化生ナリト云フ然レ氏此種子ヲ数次下種スル
 ニマシゴールドハ依然トメマシゴールドニテ
 更ニ蒸菜ニ復セシテ無ケレハ其說未々信スハ
 カラス又一說ニハ尋常蒸菜ノ種ト他種トノ中
 間化生ナルヲ論スレ氏皆一家ノ說ニシテ共
 ニ信ヲ取ニ足ラス
 凡ソ此物ハ根葉莖共ニ牛馬等ヲ牧養スルニ最
 上ノ植物ニシテ葉ハ殊ニ滋養多シトス且其味
 ノ極テ甘美ナルニ因リ冬月獸畜ニ喂スル諸植

物ノ中ニ於テ農家最モ之ヲ貴重ス又此根ヲ用
 テ砂糖ヲ製スルニ極メテ佳良ニシテ缺クヘカ
 ラサルモノトス其故ニ佛蘭西ニ於テハ常ニ之
 ヲ用テ砂糖ヲ製造ス近年愛耳蘭ニ於テモ亦其
 法ニ從テ之ヲ製造セリ且尋常赤色并白色ノ品
 ハ其地ニ能ク適當スルト見エ重大ノ品ヲ夥ク
 生産セリ但シ佛人砂糖製造ニ用フルニハ十分
 ニ白色ノ品ヲ撰擇セリ是滋養ノ質前種ニ比ス
 レハ最多キカ故ナリ

又白根紫頂ノ者并ニ内白ク外黄ナル者亦可ナ
リ又黄色野菘菜ハ此地ニ作りテ宜キ品ナレト
モ是即チ尋常菘菜ノ化生ニシテ他種ニ比スル
ニ得獲寡シトス

右ノ説ニ因ル片ハ此根ハ尋常菘菜トハ全ク
別物ニシテ牧養ノ外砂糖製造ニ専ラ用フト
見ユ此他諸種ノ菘菜ノ説ヲ檢スルニ砂糖ヲ
製取スルヲ載セス此ヲ以テ考レハマング
ールドハ即是砂糖ヲ製取スル菘菜ナリ先年

合衆國ヨリ舶来セルマングールドノ種子ヲ
下シテ培養シ試ルニ其形色恰モ本文ニ載ル
所ノ品ニ符合シ其質ハ菘菜ト火焰菜トノ中
間ニ位スヘキモノナリ

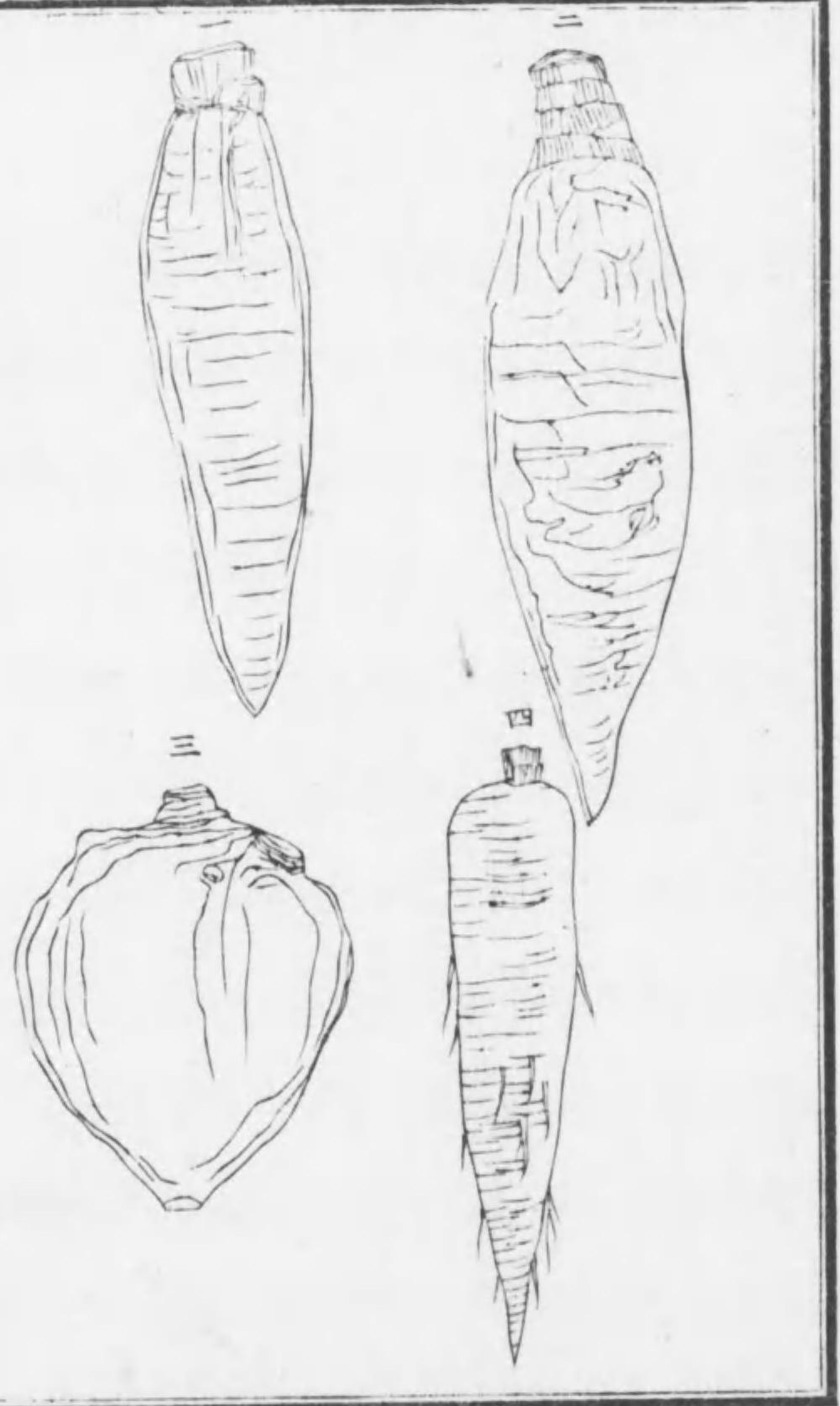
又佛ヨリ舶来セル砂糖菘菜ノ種子ヲ下シ試
ルニ其形ハ同シト雖モ根葉共ニ白色ニシテ
此又本文ニ云フ所佛人ノ撰ヒ用フル白色品
ニ符合セリ

又按スルニ佛國刊行ノ日用植物論ニハ此マ

ンゴールドノ名尋常蒸菜ノ英称トシ和蘭刊
 行ノ蔬菜説ニハ別種ノ蒸菜ヲ称セリ然レモ
 泰西農學ノ原書ハ本英人ノ著ニ係ルヲ以テ
 英書ノ説ニ據テ可トセンカ

各種マンゴールド之圖 モルトン氏農家
月課ニ出ル所

圖ノ(一)ハエルウヅアムノ長根(二)ハ尋常
 赤色長根(三)ハ白色球根(四)ハレレシアン
 種トイヒテ白色ノ長根ニテ砂糖ヲ製ス
 ルニ最佳ナリ



寸長ハ
 十一
 七
 尺
 寸
 交

攫蟲草

英 フライナップ
羅 デオチア

○

和漢共ニ名ナシ
今漫ニ此字ヲ充

ツ初編上卷十二葉
ニ捕蠅ト訳スル者

占

此草ハ茅膏菜科ノ一種ニシテ其萼五枚瓣亦五枚アリ雄蕊十或ハ二十花柱ハ一條アリ柱頭細ク五箇ニ分裂ス此草世ニ在ル者只一種
ピュラト名ク或ハ維納斯之蠅宰又加羅里那ノ攫蟲草ト呼フ

此草ハ北亞墨利加ニテモ温暖ナル濕地北カリリナノ北部迄ニハ生ス二歳以上宿根ス葉ハ根

ヨリ直ニ出テ茎ハ其間ニ直立シテ葉ヲ著ケス高サ大約三寸二三分其上端ニ蓋形ノ白花ヲ着ク凡ソ此草ハ物之ニ觸ルレハ忽チ怒ヲ發スルヲ以テ名アリ葉柄長クシテ翼ノ如ク質葉ニ齊シ又葉形ハ球状ニシテ周縁ニ長ク硬キ鬚ノ如キ毛ヲ生シ表面粗糲ニシテ滲胞粒起シ圖ノ如ク葉骨ノ左右ニ各三條ノ感覺極メテ銳敏ナル細毛ヲ生ス此毛葉毎ニ只六條ナレトモ其位置周密ニシテ蟲類此ニ來レハ必ス其一ニ觸レサ

ルヲ得ス之ニ觸ルルハ則葉忽チニ兩側ヨリ抱
 合シ周縁ノ刺毛モ亦相交組シテ蟲ヲシテ逃ル
 、能ハサラシム是ヨリ蟲ノ全ク死スルマテ開
 カス已ニ死スルノ後ハ毛ニ觸ルモ再ヒ葉ノ感
 動ヲ起サス叔葉面ノ瀉胞ヨリハ一種蟲類ノ好
 ム所ノ汁液ヲ分泌シテ之ヲ誘引スルヤ疑ナシ
 サレトモ此液此草ノ為ニ如何ナル用ヲ為スヤ
 知ルヘカラス蓋シ此瀉胞アリテ捕フル所ノ蟲
 類ノ體液ヲ吸收スルカ或ハ是ヨリ蟲類ノ體ヲ

攫蟲草之圖

佛人ボツレユー氏カ
 博物字書ニ出ツ



溶換スル所ノ液ヲ分泌シ之ヲ溶換シテ其液ヲ
 吸フ為ニスルノ外ナラシ且其表面ハ蟲類ヲ殺
 スヘキ程ノ刺戟ノ力ヲ有セストイフ

零陵香ノ説 羅

零陵香ハ深ク土中ニ根スル宿根草ニシテ其枝
 極細長苗若ニ類ス花穂藍色或ハ紫色ナルアリ
 此草原來歐羅巴ノ南部ノ産ナルカ我英國温暖
 ノ地方ニ移植エタルヨリ遂ニ地性ニ慣タルト
 ト見エタリ然レハ羅馬人ノ著ハセル書中ニモ
 往々此草ヲ賞用スルノ語散見セリ當今百耳齊
 亞リマニ多ク産ス土人四時ノ間絶エス是ヲ用
 テ獸畜ヲ養ハリ又西班牙伊太利佛蘭斯ノ南部

等ニハ上古ヨリ傳生シ来リテ其始ヲ知ルナシ
 トイフ我英國ニ傳ハリシハミルレル氏カ説ニ
 據レハ千六百五十七年ニ佛蘭西ヨリストイヘ
 リ是ヨリ後百年ヲ經千七百七十五年ニ至テハ
 ルトリッダ氏ナル者書ヲ著ハシテ大ニ之ヲ賞揚
 セルマテ其種世ニ存ストイヘトモ願ミサルモ
 ノ多カリシカ是ヨリ漸ク試用スルモノアリ然
 レトモ今ニ於テ故ニ培養スルモノハケントノ
 外寥寥數處ニ過キズコロメラ氏ノ説ニ此草ハ



零陵香圖
 獨乙人シユールトカ
 博物書中ニ出ツ

諸秣草ノ冠タリ其故ハ多年ノ間其種絶エス且
 毎歳五六回之ヲ刈リ採リ用フヘケレハナリト
 又曰ク此草ハ種ウル所ノ地ヲ肥ヤシ食フ所ノ
 畜ヲ肥ヤス加之疾ニ罹レル畜類ノ醫藥トナス
 ヘシ且エークル四分三ノ地ニ栽ウレハ一歳ノ
 間三頭ノ馬ヲ養フニ餘リアリト

セイインホインノ説 羅

セイインホインハ一種ノ宿根草ニレテ莖多ク枝
 分シ根ハ深ク土中ニ据リ葉ハ羊齒状ニ著花ハ

鮮紅色ナリ此草我英國及歐羅巴諸國ニ産ス然レ
 氏氣候温暖ニシテ石灰ヲ含ミタル土地ニ非レ
 ハ生セス縱令生スルモ長生セス佛國ナトニテ
 ハ農家ニ久ク此草ヲ栽培セリ其我國ニ傳來セ
 シハ千六百年代ノ事ニシテ亦此國ヨリ搬移セ
 レナリ是ヨリ以來多ク石灰ヲ含ミタル土質ノ
 地ニ播種ス此草一種ノ特能アリ数回耒耜ヲ施
 ス能ハスノ雜草叢生スル間ニモ萎々ト繁生ス
 其ハ此草ノ根能ク深ク岩質石灰質ノ下層ノ罅



セイソクイソクノ圖
獨乙人シユールトカ
博物書中ニ出ツ

隙ニ入リテ其處ニ附着スルヲ以テナリ凡ソ此
草ヲ獸畜ニ喂ハシムルニハ刈收シ乾カレテ與
フルモ生草ノ儘其處ニ於テ食ハシムルモ宜シ
但シ生草ノ儘食ハシムルモ首瘡零陵香ノ如ク
風氣ヲ醸スノ虞ナシ

テールノ説 英一名ウエフチ、又ファイツチ
ト云 羅ウイシア、サチウ ○我
邦翹搖ノ属 **羅**

此草ハ上古ヨリ葉ト莖トヲ用フルカ為ニ民間
ニ培養セリ我英國ニ生産ス又日本支那等ニモ

野生ノ者アリレイ氏カ千六百八十六年ニ著セ
 ル書中ニ尋常ノウヱツチハ大抵歐羅巴全洲ニ何
 レノ國ニモ培養ス就中英國ニテハ此物ヲ豌豆
 蚕豆ニ和シテ馬ヲ養フニ多ク用フ又時トシテ
 ハ殊更ニ牛ニ喂ハシムルカ為メ作ル且之ヲ
 牛ニ喂ハシムレハ多ク乳汁ヲ出スト云フ又フ
 Pウン氏ノ説ニウヱツチスハ根強キ草ナリ肥腴
 ノ地ニ播クトキハ夥ク收穫アリ牛馬ヲ養フニ
 宜シト云ヘリ

テール圖
 佛人ヘウセスノ
 植物書ニ出ソ



カロツブ、ピーンノ説英又名ロカスト、ツ
シリ占カ
セラトニア、

此樹ハ自然今科ノ中莖科ノ皂莢類ニシテ地中
海ノ沿岸諸國ニ産ス其大^サト長生スル景況ハ大
ニ平菓樹^{エツ}ニ類ス但其葉ハ卵圓ニシテ大低二三
雙莖ノ左右ニ排生スル^フ羊齒ノ如ク色深緑ニ
ノ四時ニ變セス花ハ筒ナク菓ハ莢^サ中ニ生ス莢
ハ褐色ニシテ革ノ如ク長サ四寸ヨリ八寸ニ至
リ形稍上反ス菓ノ質初メハ肉ノ如ク熟スレハ

海綿状ノ軟肉ニ変ス味極メテ甘美其中ニ種子
数多アリ色褐ニシテ光澤アリ稍扁豆ニ類ス此
種子ハ味苦クシテ用ニ中ラサレトモ菓肉ハ土
人ノ賤者皆貴重シテ之ヲ食フ而メ之ヲ食料ト
スル者ムール人亞拉比亞人最多シ又之ヲ馬ノ
飼料トナスニ極メテ良ナルヲモテ歐洲南方諸
國ニ多ク之ヲ用フ近世蝗豆ト称ヘテ英國ニ輸
入ス又之ヲ聖約翰ノ糧食ト名クス斯ク名クル^ハ
ハ上古耶蘇教徒約翰氏ナル者沙漠ノ野ヲ迷行

スル時蝗ヲ食テ其飢ヲ医セシトイフハ此菓ノ
事ナリトイヘル附會ノ俚諺ニ因ルナリ
亞拉比亞人此菓ヲ貯フルニ酸菓ヲ貯フル如ク
ニミ医藥トシ用フレハ輕瀉ノ功アリ
凡ソ此樹ハ英國ノ如キ寒冷ノ地ニハ耐フヘカ
ラスロイル氏ノ說ニ之ヲ英領印度ノ北方ニ樹
エハ大ナル國益トナリ且荒歲ノ備ニ充ツルニ足
ヘシト云ヘリ蓋シ此樹ハ菓ヲ着クル極メテ
饒ク或ハ一株ニシテ八九百斤ヲ産スル者アリ

カロップビーンノ圖 仏人シームトン
ノ藥草圖說ニ出



木質堅緻貴ブヘシ皮及ヒ葉共ニ皮ヲ韋スニ用
フヘシ一種合衆國ニ産スル蝗樹アリ全ク別種
ナリ

有機無機ノ辨

彼邦究理家兩問ノ萬物ヲ分ナテ三有トス曰ク
動物曰ク植物曰ク礦屬動物トハ上ハ人類ノ靈
智アルヨリ下ハ無血蟲類ノ蠢爾タルニ至ルマ
テ無慮數千、知覺活動ノ機アルモノヲ云フ植物
トハ五穀、藥草ノ貴重ナルヨリ蘚苔、寄生ノ無用
ナル物ニ至ルマテ其ハ不億知覺アリテ活動ノ
機ナキ物ヲ云フ礦屬トハ金玉土石ノ類總テ知
覺活動ノ機ナキ物ヲ云フ而シテ動植二物ハ或ハ

知覺活動ノ二機アリ或ハ知覺缺ルモ活動ノ機
 アリテ能ク生産死枯スルヲモテ之ヲ有機体又
 機性體ト云フ機ハ即機力機関ノ機ニシテ能其
 固有ノ力ニ依テ機轉活動スルノ謂ナリ礦類ハ
 其長スル同質ノ物相集合増添スルニヨリ其消
 スル人力ニ非レハ氣化ニヨルノミ頑然トシテ
 知覺活動ノ機ナキニヨリ之ヲ無機體ト云フ故
 ニ或ハ亦動植二物ヲ称シテ活物ト云ヒ礦類ヲ
 指シテ死物ト云フ彼邦化學ノ術近世益精微ヲ

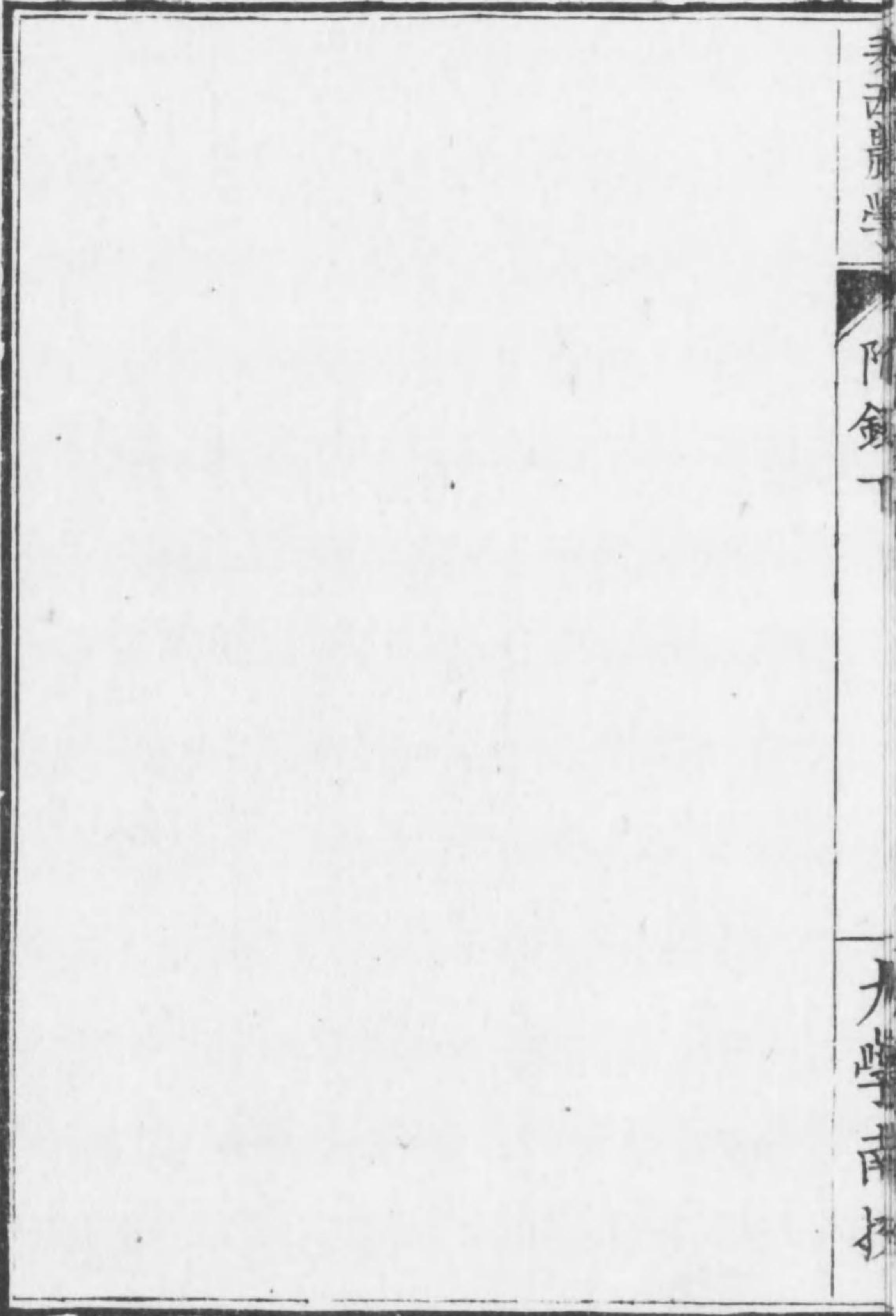
極メ天地間諸物體ヲ集成スル單純ノ元質ヲ分
 ナテ六十四トス其中酸、水、炭、窒ノ四質ノミ或ハ
 窒素ヲ缺ク有機體中必存不缺ノ品ナルヲ以テ
 モノモアリ之ヲ有機成分ト名ク他六十ノ元質ハ有機體中
 ニ存スルモアリ存セザルモアリ因テ之ヲ無機
 體成分ト云フ本編有機體、無機體或ハ有機體成
 分ト云フ者皆此意ヲ以テ解スヘシ此ハ譯書ヲ
 涉獵スルノ士ハ皆知ル所ナレトモ偏境僻里ノ
 野翁等凡ソ初テ余カ此書ヲ讀ミテ實地ニ試用

セント欲スル者遽ニ有機無機等ノ字面ヲ看テ
 譯書ハ概シテ難解無用ノ物ナリト誤リ認メ未
 タ蕪境ニ至ラスシテ棄擲セントヲ恐ル因テ聊
 カ之ヲ贅スルノミ

コトヲ糞石ノニ篇下ノ卷三十五葉ニ肉食獸糞占
ノ化土ト譯スルモノハ誤ナリ

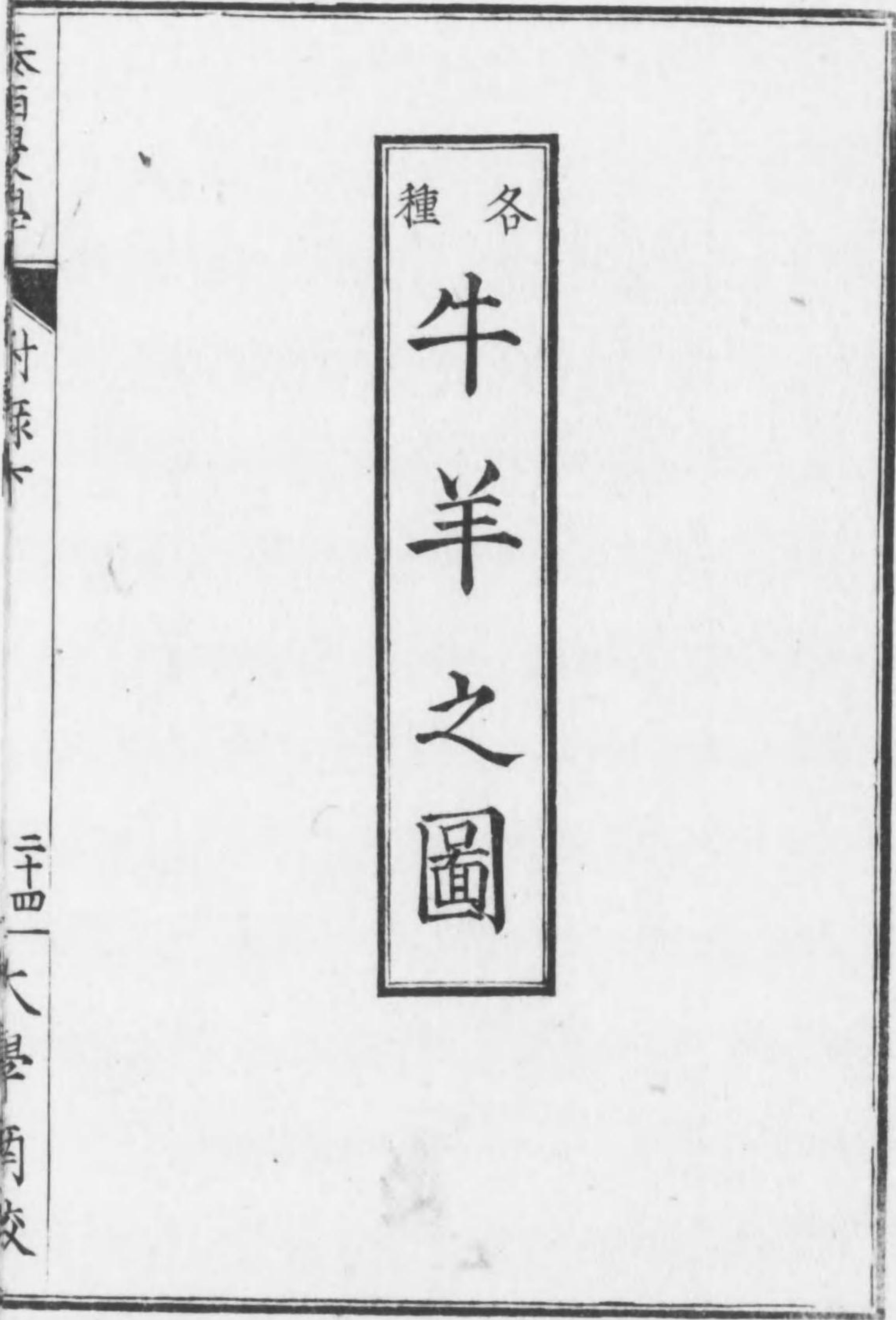
糞石ハ地皮ノ第二三層ノ石灰層ノ處ニ在ルモ
 ノナリ此物其始脚蛇類ノ枯屍體中胃腸ノ存ス
 ル所ニ在ルヲモテ其類ノ者ノ糞ナルトヲ曉レ
 リサレハ其中ニ髮、甲鱗骨、齒其他其生活ノ間ニ

食フ所ノ物ノ未タ消化セサルモノヲ含ノリ又
 時トシテハ此糞形旋規シテ恰モ生魚ノ糞ニ似
 タルモノアリ凡ソ此物ハ其中ニ多量ノ磷酸加
 爾基ヲ含ムヲ以テ近世雜賣肥糞ヲ嚮ク者多ク
 之ヲ鑿採ルトイヘリ



種各

牛羊之圖



甲圖一第



野牛

スツブレハ氏
博物字彙ニ
出ツ

此圖ハ急
蘭ニ産スル
真ノ野牛ニ
シテ色澤等
詳クナラザレ
トモ参考ノ
為ニ出ス

乙圖一第

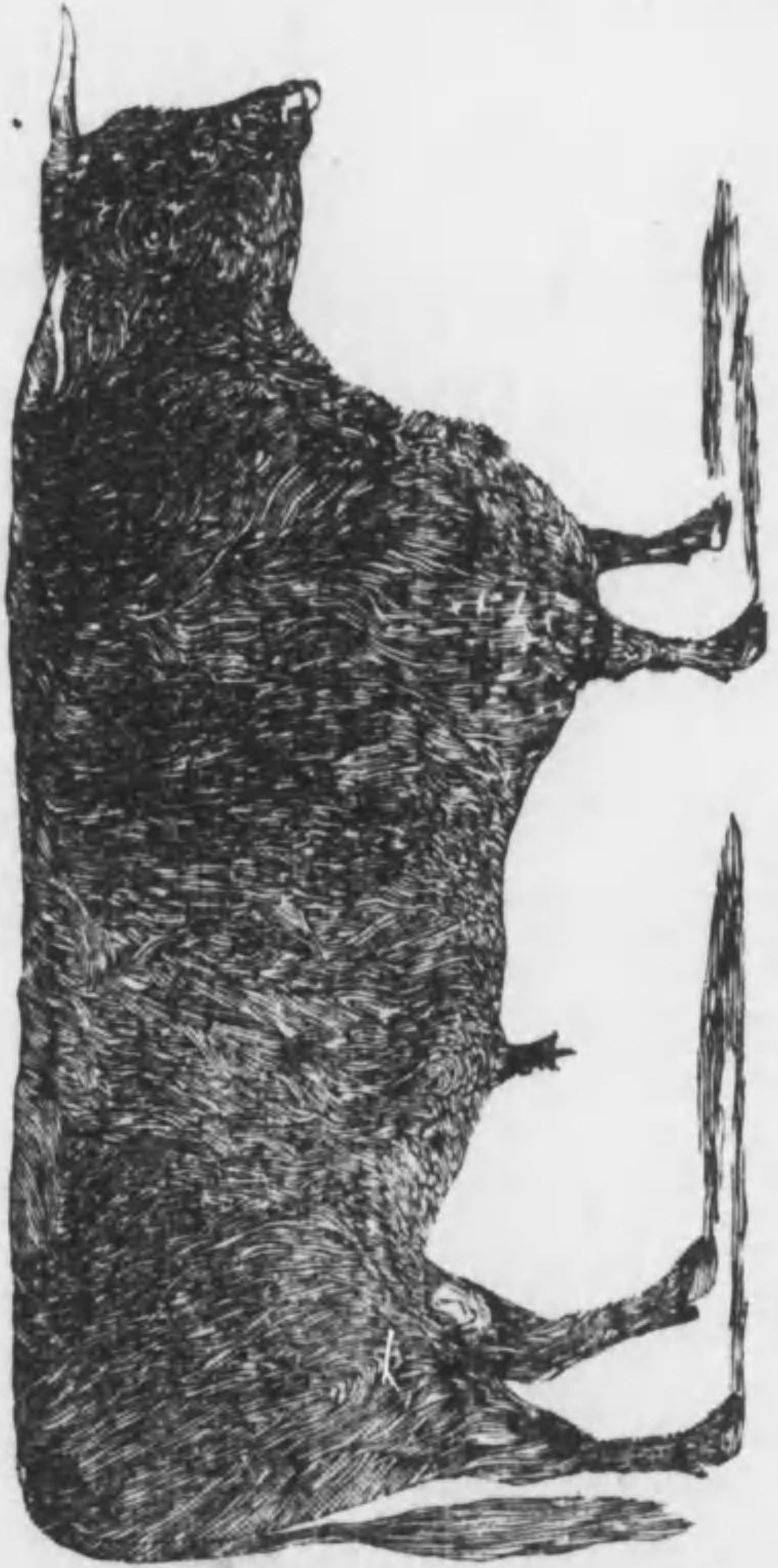


野牛
同書
出

甲圖二第

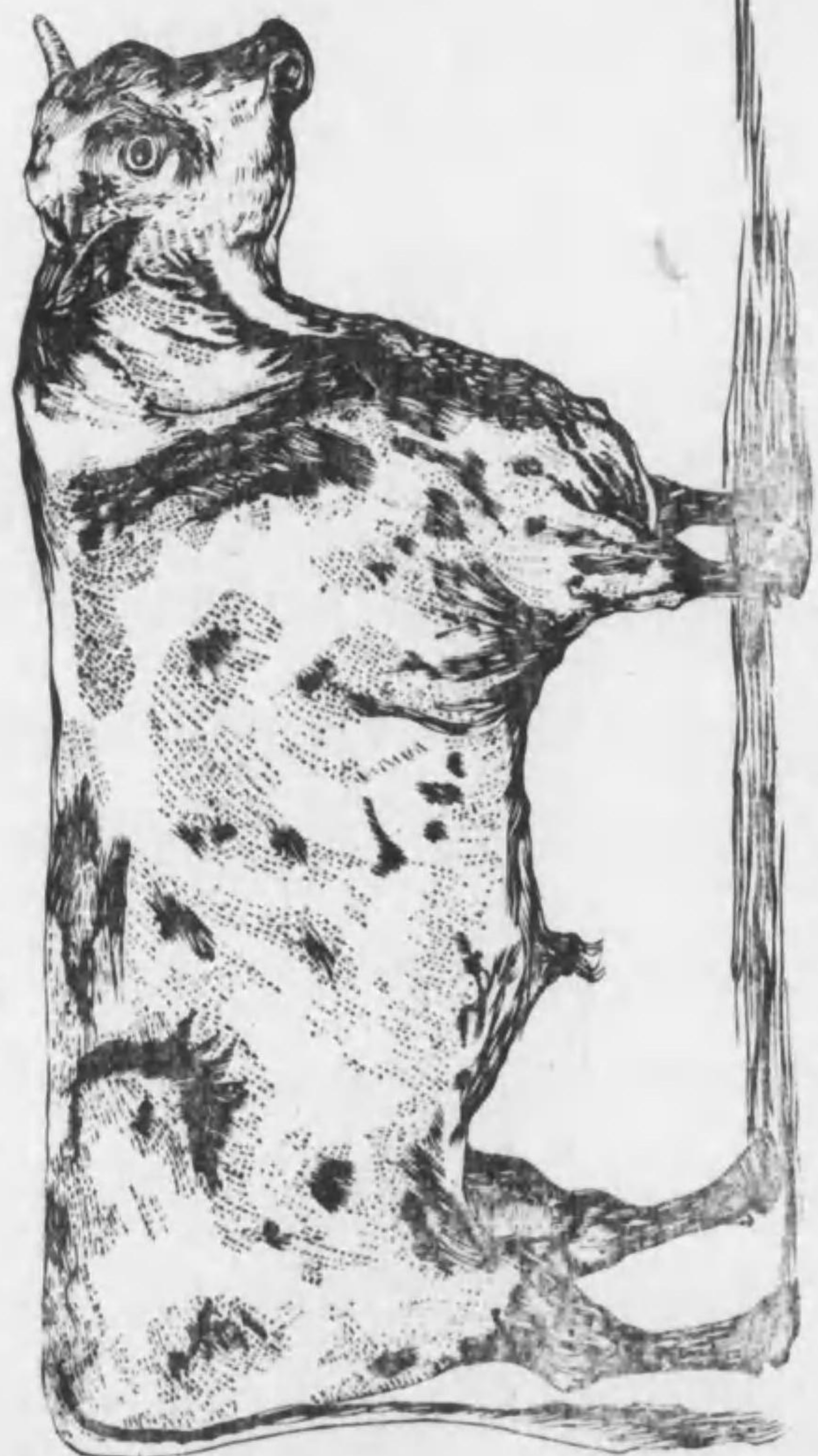


乙圖二第



牛
牛
同書ニ
出

第四圖甲



短角牛

衆院
功院
日記
出

畜産學
附録
二十
大學南校

第三圖



ヒールフォールド
シアイル種
スチーヴンス氏ノ
農業書ニ出ツ

第六圖



高地種又
キロー種ト云
同書ニ出ツ

第十圖

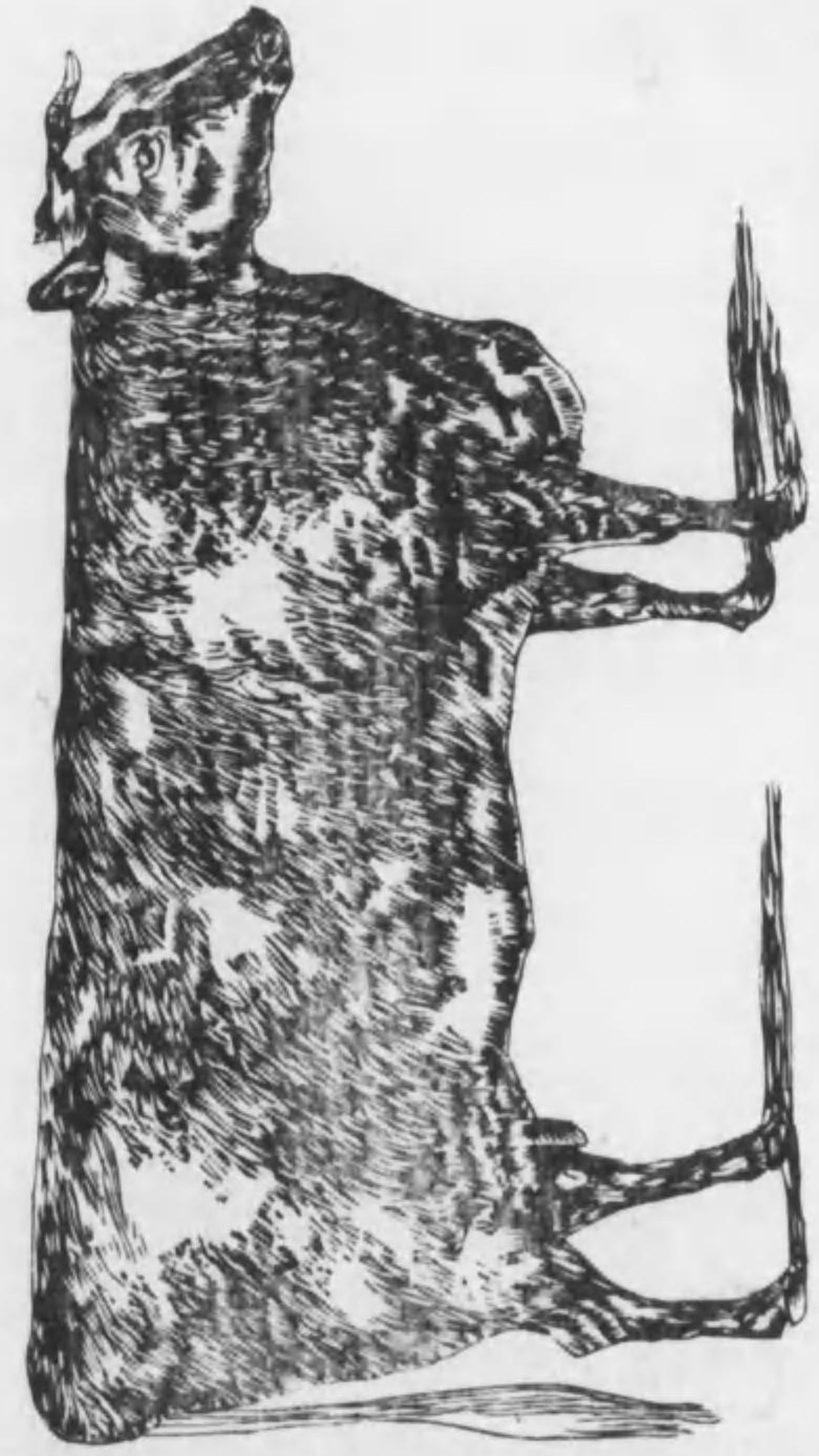


種
千エウイオット
同書ニ出ツ

畜産學
附録
二十
大學南校

乙圖四第

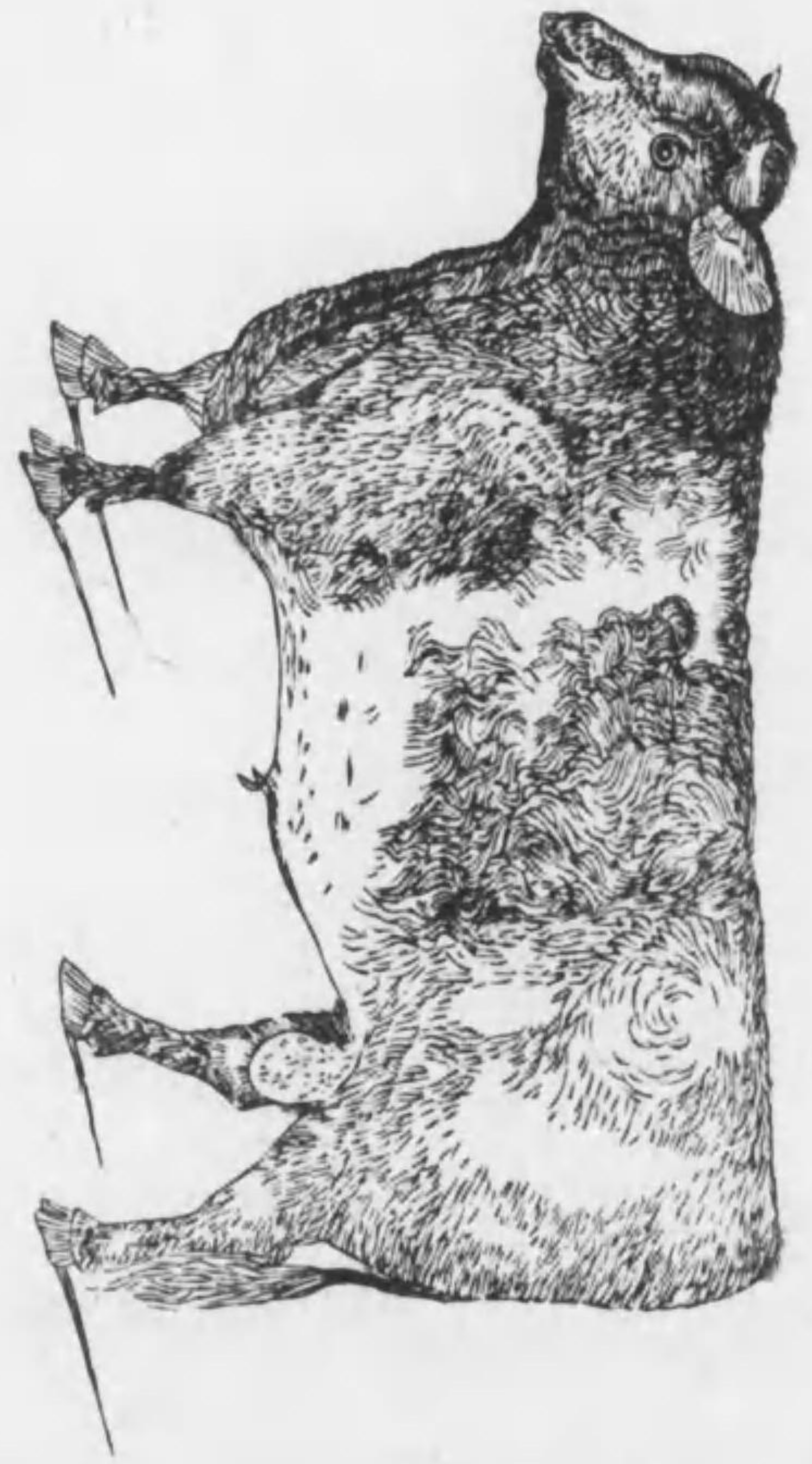
短角牛
同書
出



泰西農學
附錄
大學南校

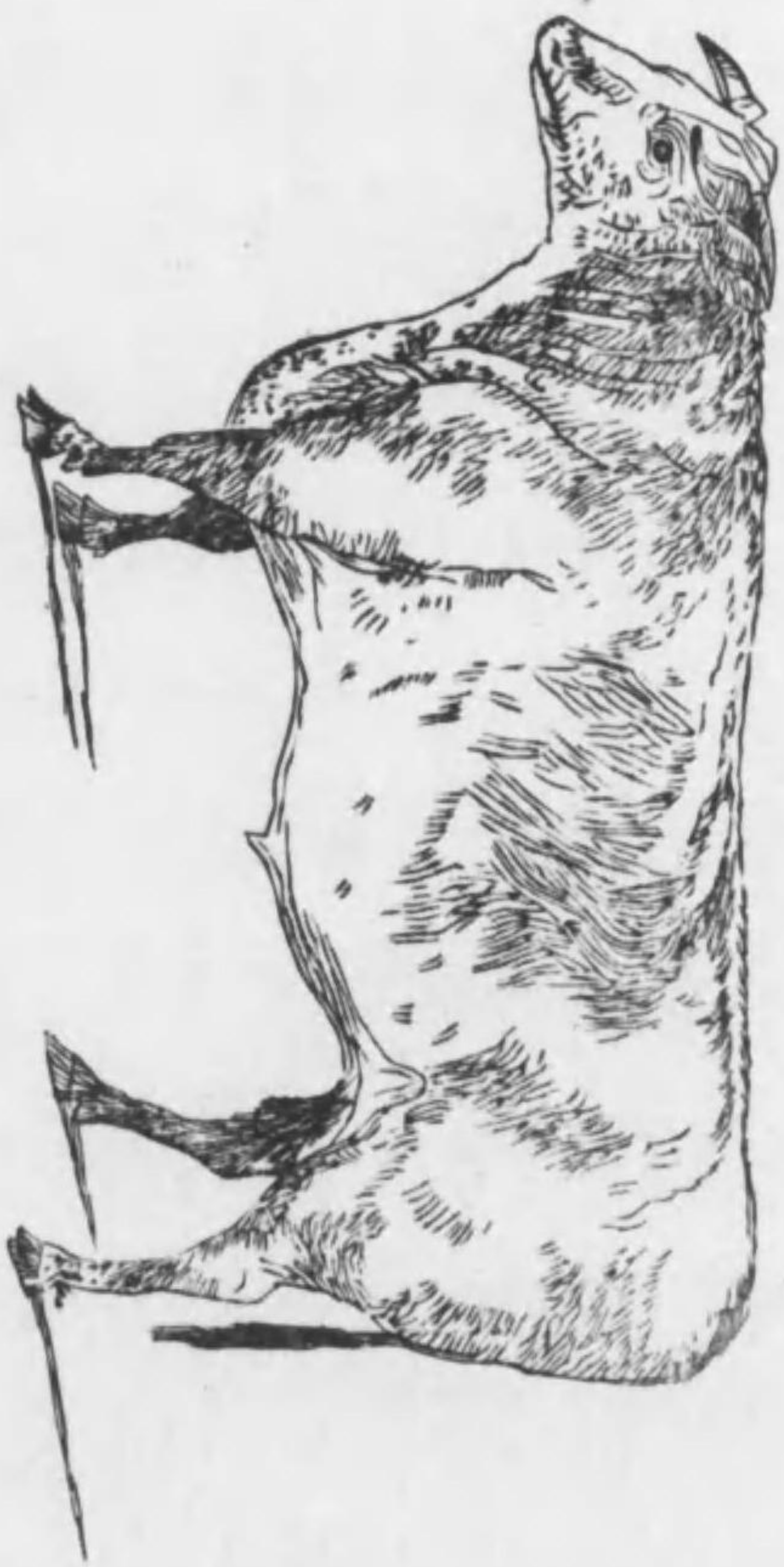
丙圖四第

短角
壯牛
不
不
或
農業
書
出



泰西農學
附錄
二十六
大學南校

丁圖四第



回圖牛
出

戊圖四第



回圖牛
出

第五圖甲



シニ
出 牛標
博物
氏
シム
スナ
杜牛
長角
種
シカ
シカ

泰西農學 附錄一 牛學 附錄

第五圖乙

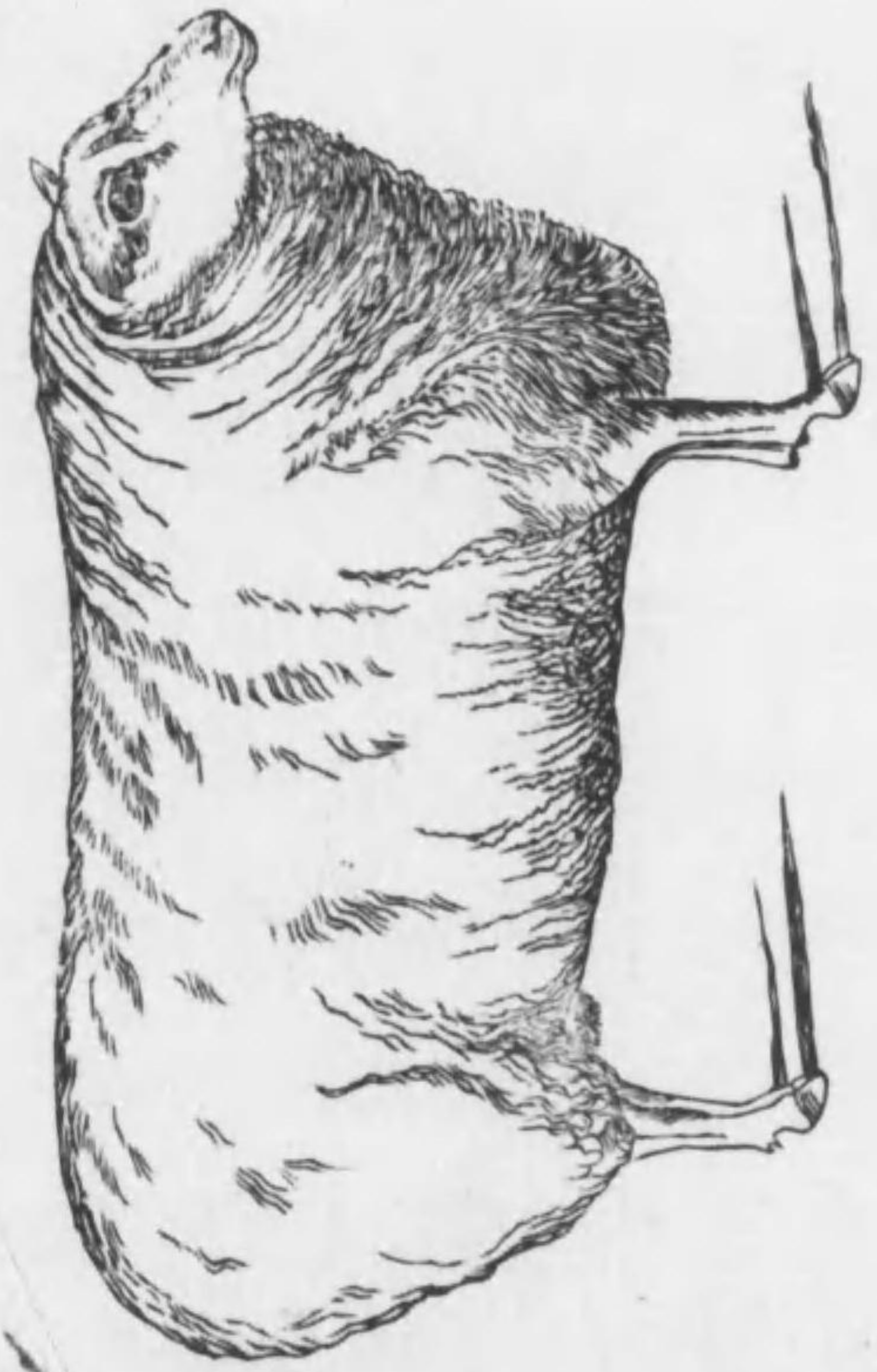


牛標
シカ
シカ

泰西農學 附錄一 牛學 附錄 三十 大學南校

甲圖七第

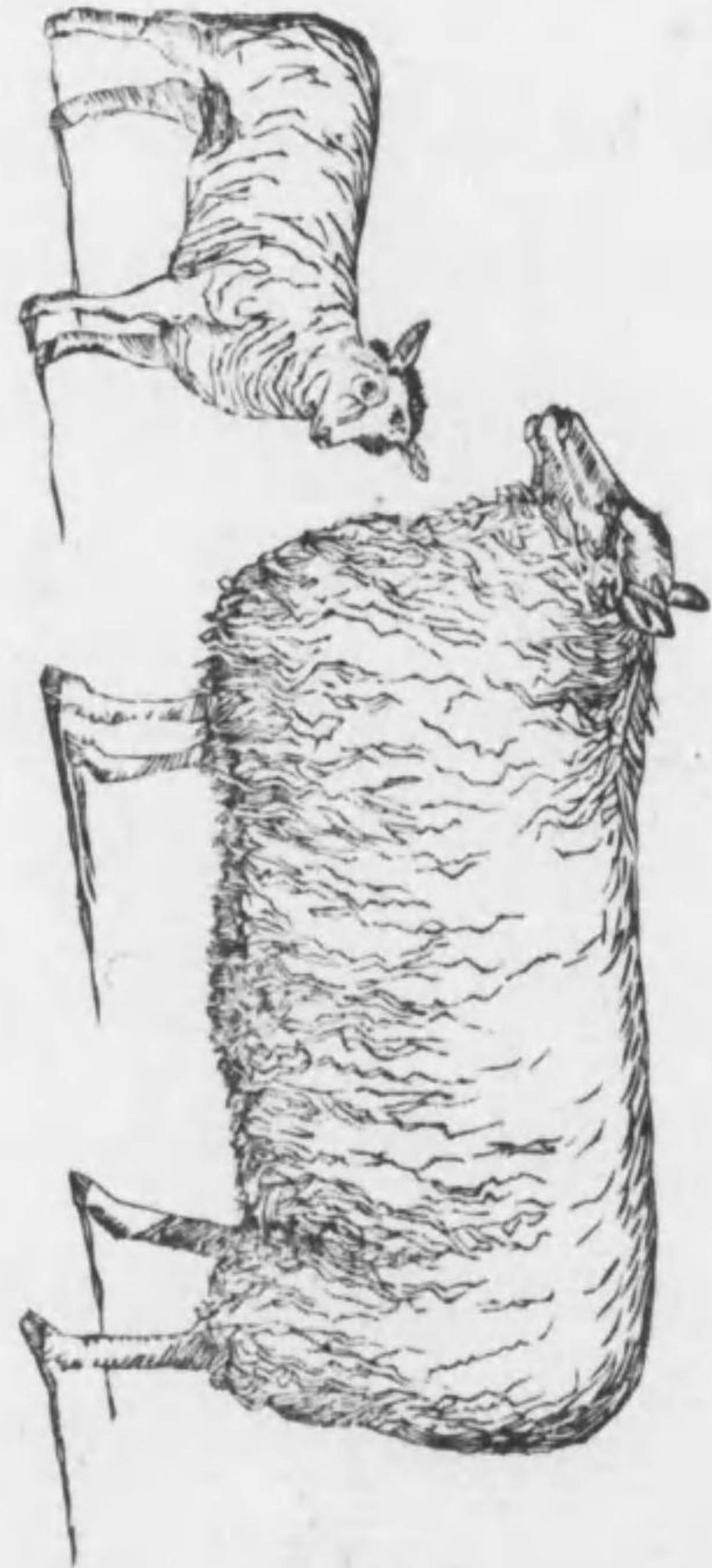
レイスト
ルンアイス
種
牡羊
スター
ブンス
氏
農業
書ニ
出ツ



泰西農學
附錄一
大學南校

乙圖七第

田
回
羊



泰西農學
附錄一
三十一
大學南校

第八圖



アールスホル
ンタイル種

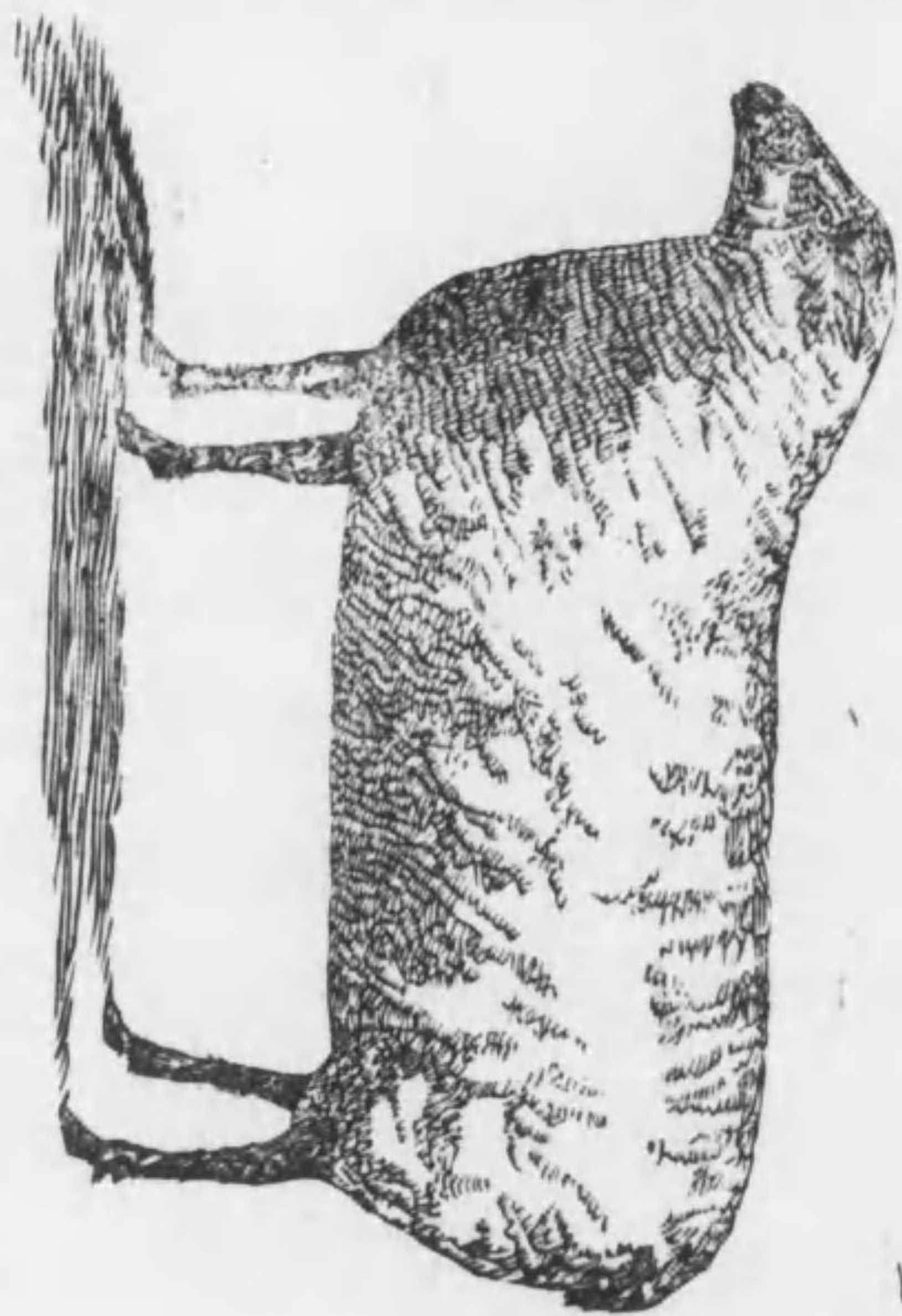
氏ノル
博物字彙ニ
出ツ

泰西農學

附錄一

大學南校

第九圖甲



羊毛
合衆國
農功記
出ツ

泰西農學

附錄下

三十三

大學南校

乙圖九第



カラスダオノ種
 無角羊
 マネハ氏
 博物字彙
 出

泰西農學
 附錄
 大學南校

丙圖九第



輪
 出

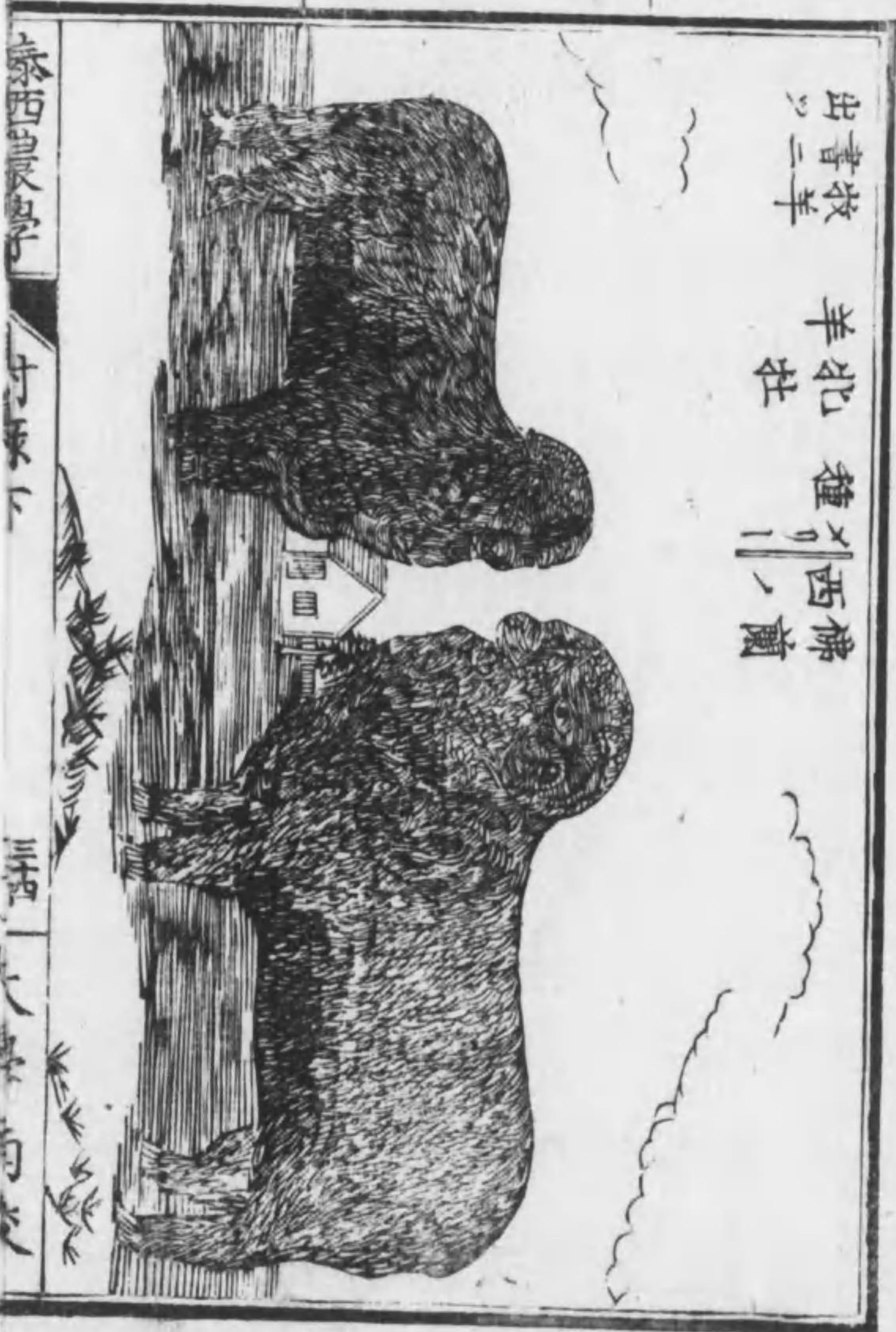
泰西農學
 附錄下
 三十三
 大學南校

圖一十第



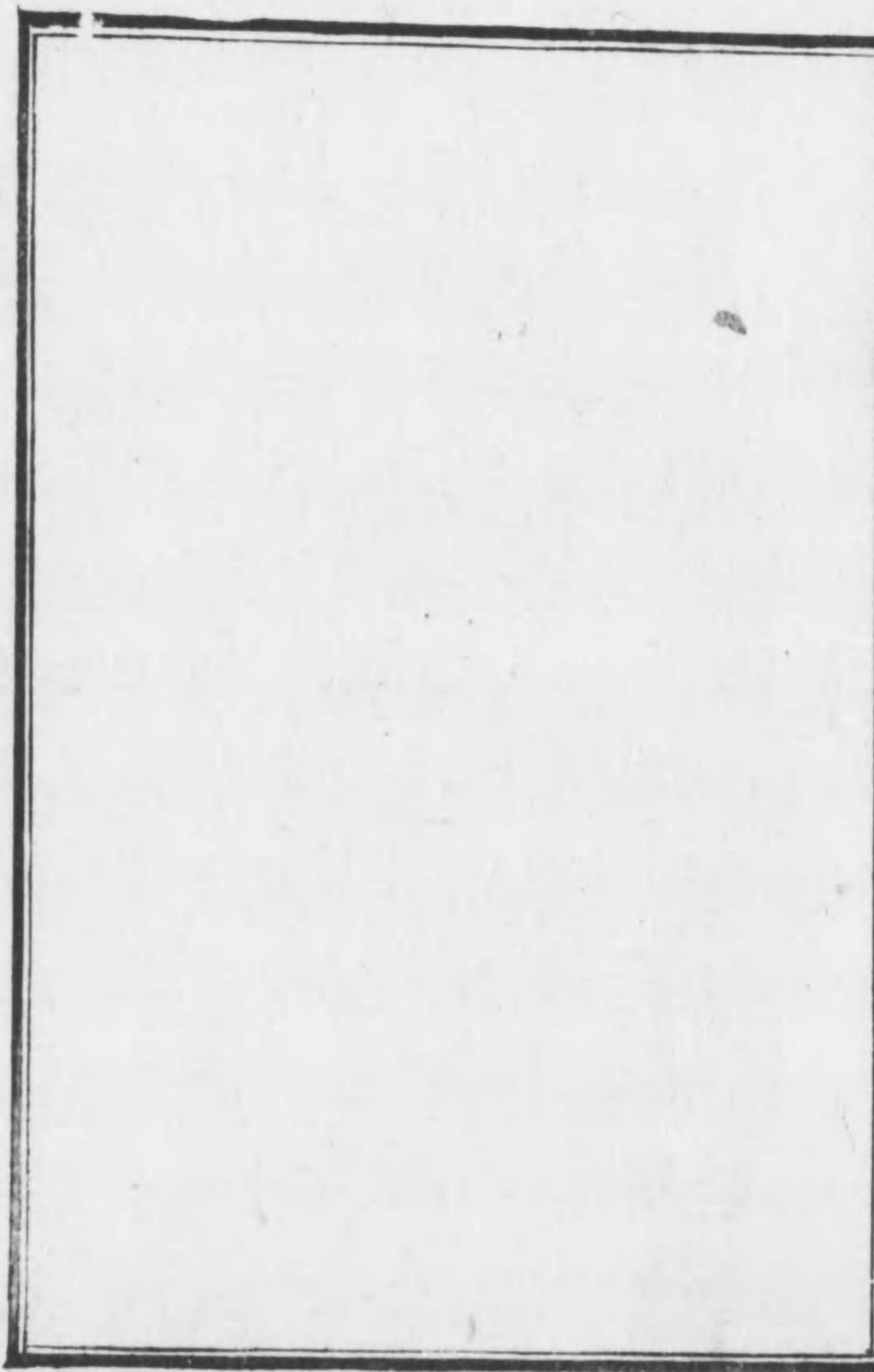
出
 同
 種
 ノ
 フ
 カ
 種

圖二十第



出
 同
 種
 ノ
 フ
 カ
 種

附録一
大學南校



| 蔬菜之名 | 生間 | 萌出 | 貯種之年限 |
|--|----|----|--------|
| 蠶豆 <small>ソラマメ</small> | 一年 | 三日 | 自三年至六年 |
| 菜豆 <small>インゲン豆</small> | 同 | 同 | 自二年至四年 |
| 豌豆 <small>エンドウ</small> | 同 | 同 | 自二年至五年 |
| レンキル豆 | 同 | 同 | 自三年至四年 |
| 馬鈴薯 <small>ジャガイモ</small> | 同 | 十日 | 同 |
| 紅蘿蔔 <small>ベニダイコン</small> 紅色ニシテ小キモノ | 同 | 三日 | 自五年至十年 |
| 菜菔 <small>ダイコン</small> | 同 | 同 | 同 |

長百農具
附録一
三十五
大學南校

| | | | | | | | |
|--------|--------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 菠薐菜 | 葱頭 | 甜瓜 | 胡瓜 | 西瓜 | 茄子 | 羊仔苣 | クレス |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 同 | 六日 | 五日 | 六日 | 同日 | 八日 | 十日 | 五日 |
| 自三年至五年 | 自二年至三年 | 自六年 | 自五年至八年 | 自四年至六年 | 自四年至五年 | 自六年至七年 | 自四年至五年 |

古來訛傳シテ州ルアリ
ト下稱スルモノ

義譯名

| | | | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 巴拉モンジン | 火焰菜 | 亞墨利加防風 | 蘿蔔 | 椰菜 | 塘蒿 | カルドン | リーキ |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 八月 | 六日 | 八日 | 六日 | 十日 | 同日 | 同日 | 六日 |
| 自一年至二年 | 自四年至六年 | 自二年至三年 | 自五年至六年 | 自六年至十年 | 自二年至四年 | 自七年至十年 | 自三年至四年 |

黒綠色ノ二種アリ其
中黒色ノモノヲ通例トス

並ノ類ニシテ葱ニ
似タルモノ

| | | | | | | |
|---------------------------------|------------------------------|------------------------------|---------------------------|---------------------------|------------------------------|---------------------------|
| 龍鬚菜 <small>オホキシキハクレン</small> | ムカコニンジン <small>和名</small> | 菊芋 <small>キクイモ 和名</small> | 白芷 <small>ヨロビシ</small> | 茴香 <small>クマクマ</small> | 早芹菜 <small>オランダセリ</small> | 恭菜 <small>マコノハ</small> |
| 同 | 同 | 宿根 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 十五日 | 同 | 同 | 十五日 | 四日 | 四十五日 | 同 |
| 自六年至十年 | 自三年至四年 | 自一年至三年 | 同 | 同 | 自三年至五年 | 自八年至十年 |

| | | | | | | | |
|--|-------------------------|--------------------------|-------------------------------|----------------------------------|-----------------------------|--------------------------------|--------------------------|
| 馬齒莧 <small>スズクサ 食用ノモノハ根耳草ナリ</small> | 葛苣 <small>クサ</small> | 苦苣 <small>キクサ</small> | ヲロツチ <small>蕪ニ似タル草</small> | 左ルヒル <small>三ツ葉芥ニ似タル草</small> | ボレシ <small>蕪草類ノ草</small> | サボリー <small>辛料ニ用ユル草</small> | 胡荽 <small>コシト</small> |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 三日 | 四日 | 同 | 八日 | 五日 | 八日 | 同 | 十日 |
| 自八年至十年 | 自二年至五年 | 自六年至十年 | 自二年至四年 | 自三年至四年 | 自二年至三年 | 自四年至五年 | 自二年至五年 |

| | | | | | | | |
|----|-----|--------|--------|--------|---------|--------|--------|
| 燕菁 | 胡蘿蔔 | 羅勒 | 番椒 | 番椒 | 鹿角葉車前 | 芥子 | 荷葉蓮 |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 兼ヲ食用スル品 | 同 | 同 |
| 三日 | 同 | 五日 | 同 | 同 | 八日 | 三日 | 十日 |
| 同 | 同 | 自二年至三年 | 自三年至四年 | 自六年至八年 | 同 | 自二年至三年 | 自三年至六年 |

| | | | | | | | |
|--------|---------------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|
| 朝鮮薊 | レンピオン | 酸模 | 芹ノ類 | タルラゴン | 胡蒼耳 | 苦艾草 | 芸香 |
| 和名 | 桔梗ノ葉ニノ葉ヲ食用スル品 | スガシホ | | 辛料ニ用フル草 | ヒンナル子ル | ニガヨモギ | ヘシラダ |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 十日 | 同 | 八日 | 十日 | 同 | 同 | 八日 | 廿五日 |
| 自三年至五年 | 自四年至六年 | 自三年至四年 | 自三年至五年 | 自三年至四年 | 同 | 自一年至三年 | 自三年至八年 |

| | | | |
|------------------------------|---|-----|--------|
| ヒイソップ <small>辛料ニ用フル草</small> | 同 | 三十日 | 自四年至六年 |
| 小葡萄 <small>子</small> | 同 | 同 | 自七年至十年 |
| 懸鉤子 <small>覆盆子</small> | 同 | 同 | 同 |
| 荷蘭苺 <small>和名草苺</small> | 同 | 十日 | 自一年至三年 |

右四葉ノ蔬菜表ハ余ガ此譯舉アルヲ聞テ友人芳男田中氏ヨリ贈ル所ナリ因テ之ヲ補遺トシテ今此ニ加フ

本編正誤

初編

上卷

第五葉 先ツ預メ試驗ヲ為ス時ハ他日之ヲ數
 エークルトイフ下ノ分註ニ一エークルハ我
 千二百十坪ニアタルト記セルハ誤ナリ當ニ
 我千二百二十坪余ニ作ルベシ
 第六葉 菜圃家ハ其園圃一エークルヨリ年毎
 ニ價金二百五十パオントニ當ル收穫アリト

云條ノ分註ニ一パオソドハ大凡令ノ通用金
 五兩ニアタレバ此處ニ云フ所ハ只假設ノ例
 ノミニテ實價ヲ云フニハ非スト記セリ是亡
 友柳河氏ニ閱ヲ請ヒシ時其說ニ一エークル
 ニシテ斯ク夥多ノ得獲アリトイフハ實ニ過
 キタリ恐ラクハ刷印ノ誤リカ或ハ假設ノ辞
 ナルベシ然レバ寧分註ヲ附シテ讀者ノ疑ヲ
 解クニ若カジト遂ニ此註ヲ加ヘシカ當時ハ
 余別ニ異見ナカリシカバ其意ニ從ヒシナリ

然ルニ爾後倫敦ニ留學セシ同僚等ノ談話ヲ
 聞クニ歐洲ノ内ニモ殊ニ本府ナドハ總テ野
 菜ノ價ノ貴キヲ殆ント珠玉ニ等シトイヘリ
 然レハ原本ニ載スル所全ク假設ノ語ニハ非
 スト知ルベシ但シ專ラニ五穀或ハ秣草ノミ
 ヲ種ウルノ農夫ハ其收穫十分ノ一二足ラズ
 因テ其地價モホ之ニ若クト羅當氏ガ農業集
 成韵府ニ載セタリ

第七葉 然ル時ハ二十エークル
凡我七町六此
 畝余ニ當ル

分註誤レリ一エーケルハ前ニ云フ如ク我千
 二百二十坪余ナレバ二十エーケルハ即八町
 一及百坪餘ニ當ル以下諸篇ニ載スル所皆之
 フ率トスヘレ逐一刪正セズ

第八葉 其粉七斤毎ニ肉一斤ヲ獲ルト筭スル
 時ハ八分エーケル毎ニ大約十四斤ヲ獲ベク
 一エーケル毎ニ六百十四斤云云略此十四斤
 ノ上ニ八ノ字ヲ脱ス即八十四斤ナリ是原本
 ニ載スル所校正ノ時ニ見落セシナリ然ルニ

八十四斤ヲ八ニテ乘スレハ六百七十二斤ト
 ナル原本亦既ニ誤レリ蓋シ八分エーケルニ
 レテハ八十四斤ノ肉ヲ獲レドモ一エーケル
 トナリテハ傭錢地租等ノ價ヲ其中ヨリ減ス
 ルヲ以テ三十二斤ノ損減ヲ生ズルヤ知ルハ
 カラズ尚異日考定スベシ

第八葉 茲ニ收成ノ損益ニ就テリンコルノ
 田野ニ居ル野人ノ例ヲ舉テ云々トイヘル此
 野人ハ原名コッテীগアルニテ初此編ヲ譯セシ

時々ブストル氏ノ英辭書中一ノ解野人ト有
タル故是ニ據リタルカ令羅ニ依レハコッテ
ガルトハ此ニ一二エークルノ田地ヲ所有シ
テ其處ニ菜穀秣草ヲ作り或ハ土地ノ景況ニ
ヨリテ獸畜等ヲ牧シテ生トナス細農ニテ繁
ノ野人トイフベカラズ

第九葉 粗悪ナル耒耜ヲ以テ一ロツト^エ四^今ソ^クル
我^三百^餘 此令註誤レリ一ロツト^ハ即^チエ^ーク^ル
ノ四^分一^ナレハ大約我三百。五坪ニ當ルナ

リ曩ニエークルノ坪数詳ナラサリシニ因テ
誤マレルナリ

下卷

第三葉 硫酸鏡百斤ヲ取り百ガルロ^ン石^大凡^二

當ニ此分註斗量ノ比例英和字書ニ依リテ誤マ
ラレタリ我一斗ハ彼ノ三ガルロ^ニ九九四^ニ
當^ルヲ以^テ彼一ガルロ^ンハ大約我三升許ニ當^ル是ニ
因^テ彼百ガルロ^ンハ大約我三石ニ當^ルト知ベシ

第七葉 蓋シ空氣ハ素ト七十九分ノ窒素ト二

十一分ノ酸素ヨリ成ルモノナレバ云々此成
 ルモノトモノナレバトノ間ニノ安摩尼ハ即
 チ窒素ヨリ成モノノ十七字ヲ脱ス是華昔ノ
 為ニ誤マラレシヲ校正ノ時見落セシナリ又
 裏片ニ吾人日常播種スル所ノ穀類ハ素ヨリ
 中能ハザルナリ云此下ニ必一回安摩尼ト成
 リタルモノヲ要スルナリト云フ意ヲ添テ見
 ルベシ

同葉 ブーレンゴール曰植物ノ空氣ヨリ安摩

尼ヲ吸取スル云々此安摩尼ハ窒素ノ誤ナリ
 且吸取シテ直ニ養ニ供スルハト云フ数字ヲ
 副テ看ルベシ

第八葉 アクランド曰ク云フ毎季更種 同一ノ

終歲四回別種ノ法此本文分註共ニ誤レリ毎季
 菜穀ヲ種ルノ法 交種ニ非ズ毎歲別種ノ菜穀ヲ更換シテ四年
 ア一期トシテ種ウル更換收穫ノ法ナリ此條
 ヲ譯セシ時余未ダ其事ヲ詳ニセザリシヲモ
 テ四時ニ更種スルコト、思ヒシカバ澆ニ毎

卒更種トセシナリ四歳更種ト改ムベシ更換
收穫ノ詳ナルハ補遺ヲ看ルベシ

二十一葉 表中ニ若糞シヤクシ此諱字當ラズ當ニ鵝諾
或ハ海鳥糞ニ作ルベシ

二十二葉 表中ニ芋薯蔓トアル者當ニ馬鈴薯
莖ニ作ルベシ

二編上卷

第十七葉 表中千八百五十一年ノ蕃藜トアル
モノヨリ以下諸篇ニ出ル所皆當ニ馬鈴薯ニ

作ルベシ逐一之ヲ正ガズ

第二十葉 表中 十四。十四。當ニ十四。一。零。ニ。九。

六。八。九。零。六。ニ。零。下。四。八。零。下。零。四。ニ。作ルベシ

第二十一葉 表中 零。下。九。十。八。當ニ零。下。九。零。

ニ。三。一。八。二。零。一。ニ。十。二。七。八。十。二。零。七。ニ。作ル

ベシ

下卷

第二十一葉 表ノ第四行ニ三、零、八、五トアルハ
當ニ三八五ニ作ルベシ

第二十七葉 表第一號第三行ニ十四、七九トアルモノハ當ニ十四、七六ニ作ルベシ

第二十九葉 表第二行ニ全三十一バオンドトアルモノハ三十三ニ作ルベシ

第三十七葉 註ノ表第三行ニ硫酸鏡トアルハ酸化鏡ノ誤ナリ

三編上卷

第十八葉 表四行大麥ノ下層白處ニ當ニ百十二ノ三字ヲ入ルベシ

本編補義

初編

上卷

第七葉 貧人ニ施ス物ヲ減シミカク選卒ニ与フルノ

費ヲ省クト云フハ英國ノ農家ニハ定額地租

ノ外ニ僧徒ヲ養ヒ貧乏ヲ賑シ義塾ヲ立テ或

ハ橋梁道路ノ營繕ノ入用寺院ノ預人一村ノ

名主又番人ノ給料村送リノ乞食農兵取立、罪

人ヲ囚捕スル等ノ掛リヲ出スヲ皆其田地ノ

高ニ割附ルヲナレハ斯ク言フヲト知ルベシ
詳キヲハ余近日西農餘話ヲ著シテ之ヲ説ク
ヘシ

第八葉 メチ氏ノ説ニ云々中略且曰ク凡ソ農夫
ニ會テ此ノ疑問ヲ為ス時ハ云々此此ノ疑問
トノミイヒテハ意尚足ラザルニ似タリ宜ク
農夫ニ會テ汝ハ爾ノ所有ノ園圃ヨリ一エー
クル毎ニ幾許ノ肉ヲ出スヤ或ハ幾頭ノ牛羊
豕ヲ養ナヘルヤトイフ辭ヲ補フテ見ルベシ

第十七葉

シキウタ此草ハ一種麻蘇ノカアル
毒草ニシテ舶來ノ品アリ医家其葉ヲ煎熬シ
煉藥ノ綱トナレテ用フ鎮痙定痛ノ功アリ之
ヲ失尪シ荅越シ幾斯荅羅シ偃シ焉又省キテ失尪荅越
幾斯トイフ越幾斯荅羅偃焉ハ抽出ノ義即チ
煎熬シテ功分ヲ抽出シタル意ニシテ医家ノ
皆知ル所ナレバ詳ニセズ

下卷

第三葉

四車載量ノ鋸屑ヲ散瀝シ云按ズルニ

英國ニテ尋常物ヲ載セテ運輸スルノ車ハ長
サ大約六尺濶サ三尺深サ二尺許アル箱ヲ軸
上ニ安シ其中ニ物ヲ容ル、トトイヘリサレ
ハ一車載量ハ大約我五石五斗五升許ニシテ
四車載量ハ二十二石二斗許ニ當ルト知ルベ
シ

第十六葉 瀝西人草木ヨリ流出スル膠ヲ二種
ニ分ツ其水及温湯ニ溶解スヘキ者ヲ名ケテ
護謨トイフ亞羅比亞護謨ノ如シ其湯水ニ溶

解セズシテ酒精類ニ溶解スル者ヲ華爾私ト
名ク松脂朴屈法葛華爾私蘭ノ如シ然ルニ和
漢共ニ此區別ナク概ソ膠又ハ脂ト呼フ故ニ
別ニ充ツベキ譯字ナシ先輩瀝字ヲ作りテ護
謨ニ充テ燻字ヲ作りテ華爾私ニ充テタリ今
之ニ倣フ

二編

下卷

第一葉 鏡或ハ粘土ノリトルト此リトルトハ

化學家ノ用フル蒸餾器ノ名ニシテ即セイ捨窓開宗ニレトルトルトアル者は是ナリ

三編

下卷

三十二葉 メツチ氏ノ説ニ又牛ニハ一豎童ニ命シテ措置セシムルニ一週間ニシテ每頭大約一ファールギングヲ費スノミナリトアリ是ハ一豎童ヲ雇入レ牛ヲ監護セシムレハ其雇賃一頭ニ配算シテ僅ニ一ファールギングニ當

ルトイフナリ一ファールギングハ便ベ厄チノ四分一ニシテ大約我邦現今ノ三分一厘餘ニ當ル是其費用ハ極メテ些少ニシテモ畜ノ為ニ大利アルヲ知ラシムルカ為ニ本文ニ引ケルナルベシ

泰西農學附錄下
市川清流校

市川清流 校

泰西農學附錄下

明治十一年八月五日御届
同年九月二十八日出版

定價壹圓三拾五錢

東京府下書籍問屋

穴山篤太郎

第一大區七小區南
傳馬町二丁目拾三番地

翻刻出版人

終